

ベトナムに養鶏設備

ハイテム、10億円で受注

養鶏設備メーカーのハイテム（岐阜県各務原市）は、ベトナムのチミン市から約10億円で養鶏設備を受注した。

同市郊外で2019年3月、1日最大50万頭の鶏卵生産に向けた設備を着工する。ベトナムでの受注は2件目。こうした実績をもとに、アジアの新興国での受注拡大を目指す。

受注したのは養鶏設備12棟。1棟あたり5万羽の鶏を飼うことができ、コンピューターで管理し、自動で給餌、採卵できる。1時間で2万個余りの鶏卵が得られる。現地の従来型の養鶏場に比べ、従業員1人あたりの鶏卵生産量を約10倍に高められるとしている。

ハイテムの17年9月期の売上高は約50億円で、「国内の養鶏設備のシェア

で6割を超えている」（安田勝彦社長）という。ただ国内は少子化で鶏卵消費が減るとみて、輸出に力を入れる。すでにベトナムではハイテムが別企業の養鶏設備を手掛けている。さらにインドやバングラデシュ、タイ、インドネシアなどでの受注に向け、現地代理店を通じ売り込んでいる。食生活の向上で鶏卵消費が増えており、設備需要を取り込む。